

## 第57回 東北農業経済学会・岩手大会のご案内（第3報）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、**岩手緊急事態宣言が発出されたため、大会シンポジウムは、岩手県内在住者を含め、オンライン参加方式のみに変更して開催**することになりました。

**会場参加で申し込みされていた方にも、オンライン会議（Zoom）のURLを送付いたしますので、オンラインでの参加をお願いします（当日は会場にお越しいただいても入室できません）。**

**シンポジウムでは、スマート農業をテーマに事例報告、討論を行います（参加は無料）。**

研究者、行政・普及関係者、農業関係団体、農業者の**皆様の積極的なご参加**をお待ちしております（参加申込を別紙様式により9/2まで延長します）。

- ◆日程 2021年9月4日（土）諸会議、個別報告 9月5日（日）大会シンポジウム、総会  
◆場所 **オンライン（岩手県立大学滝沢キャンパス共通講義棟講堂からZoom配信）**  
◆参加費 **無料**

- ◆大会シンポジウム（9月5日（日）） ※報告内容等は2ページ参照  
テーマ：スマート農業技術の導入等による東北水田農業経営のイノベーション  
【会場】 **オンライン（岩手県立大学滝沢キャンパス共通講義棟講堂からZoom配信）**

- ◆主催 東北農業経済学会岩手大会実行委員会  
（委員長：新田 義修（岩手県立大学） 事務局長：前山 薫（岩手県農業研究センター））  
◆共催：岩手県立大学、岩手県、農研機構 東北農業研究センター、J A岩手県中央会、  
（一社）岩手県農業会議、岩手県土地改良事業団体連合会、（公社）岩手県農業公社  
※ 本学会大会は開催にあたり、岩手県立大学全学研究支援費の助成を受けています。

### ◆プログラム

#### —【2021年8月23日～9月4日（大会第1日）の期間】—

#### ○個別報告 オンライン開催（YouTubeチャンネル）

各報告者が作成した**報告動画をYouTubeチャンネル（第57回東北農業経済学会岩手大会）**において公開しています（報告一覧は4ページ参照）。

<https://www.youtube.com/channel/UCCRSdB-KgXUY9aVpFg-GQkg/videos>

**各自、報告動画を視聴いただき、質問のある場合（学会員に限る）、9月4日18:00までに学会事務局（tohoku-agriecon@grp.tohoku.ac.jp）あてメールでお送りください（詳細は4ページ）。**

**質問者及び座長に対して、9月7日正午までに、報告者から直接メールで回答があります。**

#### —【2021年9月4日（土）（大会第1日）】—

- 編集委員会 13:00～14:30 オンライン開催（Zoom）  
○学会賞選考委員会 14:00～14:45 オンライン開催（Zoom）  
○役員会 15:00～17:00 オンライン開催（Zoom）

※ 各会議担当者から、該当者にオンライン会議（Zoom）のご案内をいたします。

—【2021年9月5日（日）（大会第2日）】—

会場：オンライン（岩手県立大学滝沢キャンパス共通講義棟講堂からZoom配信）

- 受付 9:00～  
○開会・挨拶 9:30～ 9:42  
○大会シンポジウム 9:42～16:20

## テーマ：スマート農業技術の導入等による東北水田農業経営のイノベーション

座長 新田義修(岩手県立大学)・磯島昭代(農研機構 東北農業研究センター)

東北農業の現状は、県ごとに多様性を維持しつつ、小麦、大豆、飼料作(稲)など土地利用型作物、園芸作他の導入などが進められているものの、その中心は、水田農業といえる。その中で、大規模な担い手の増加やそれに伴う省力技術の必要性、雇用管理、零細分散錯圃による作業能率の悪化、土壌条件の差や管理作業の繁雑化などによる単収水準の低下などが課題であると認識されている。これらを解決する手段の一つとして、「スマート農業技術」に注目が集まっている。そこで、本シンポジウムでは、スマート農業技術の導入他について東北水田農業経営の主要な分類の担い手から事例を選定し、各地域・経営体の課題解決に向けて、スマート農業技術を含む新技術の導入がいかに関われ、どのようなイノベーションを誘起しているのか、課題は何かについて検討する。具体的には、①スマート農業技術を活用するには、どのような取り組みが必要になるのか、②イノベーションを起こしうる経営風土、環境はどのようなものか、③技術評価、社会実装に関する社会科学のあり方について検討する。

座長解題 新田義修(岩手県立大学)

基調報告 東北水田農業における技術・経営・地域のイノベーションを評価する  
—社会科学はイノベーションをどう評価し社会実装するか—  
門間敏幸(東京農業大学)

第1報告 超大規模法人における生産効率化への取り組み (株)西部開発農産(岩手県)の取組  
—スマート農業技術を活用した多筆・分散圃場の営農データの取得・活用方策—  
宮路広武(農研機構 東北農業研究センター)・清水一孝((株)西部開発農産)

第2報告 大規模集落営農法人における担い手の確保・育成の実態とスマート農業が与える影響  
稲葉修武・笹原和哉(農研機構 東北農業研究センター) (農)たねっこ(秋田県)の取組

第3報告 スマート農業技術を活用した低コスト化と高付加価値化による新たな地域農業の創出  
—青森県のA経営を事例として— (株)アグリーンハート(青森県)の取組  
佐藤拓郎((株)アグリーンハート)・安江紘幸(農研機構 東北農業研究センター)

第4報告 一戸一法人におけるスマート農業技術導入の実態と今後の取組方向 (有)アグリスト(岩手県)の取組  
高橋章郎((有)アグリスト)・幸田和也(農研機構 東北農業研究センター)

第5報告 岩手県沿岸被災地域の水田農業における技術導入と新たな展開  
—震災後に設立された集落営農法人の取組から— (農)サンファーム小友(岩手県)の取組  
吉田徳子・前山 薫(岩手県農業研究センター)

総合討論

座長総括 磯島昭代(農研機構 東北農業研究センター)

- 総会 16:30～17:30

=====

## ◆大会参加申込及びオンライン参加・視聴方法について

### 1. シンポジウムの参加方法

参加費は無料です。参加方式は、「**オンライン参加**」のみとなります。9月2日(木)までに、別紙様式1「**大会参加申込**」により、Eメールにてお申し込み下さい(申込先は下記のとおり)。当日は会場にお越しただいても入室できませんので、ご注意ください。

オンライン参加のみになるため、**必ず事前に申し込み**をお願いします。

**【シンポジウム参加申込・問合せ先】**岩手県農業研究センター 企画管理部農業経営研究室

藤澤 真澄 e-mail: masu-taka@pref.iwate.jp TEL 0197-68-4404

#### (1) オンラインでの参加方法

- ① オンライン会議ツールのZoomを用います。Zoomによるシンポジウム参加には、PC(カメラ、マイク機能付き)、Zoomアプリ、インターネット回線が必要になります。Zoomクライアントアプリは無料でダウンロード可能ですので、インストールしていない場合、各自、インストールをお願いします。
- ② 岩手大会実行委員会から、**参加申込者(会場参加で申し込みされていた方も含めて)**に対し、シンポジウム開催3日前(9月2日)までに、Eメールで**オンライン会議(Zoom)のURL、報告要旨集を送付**します。
- ③ **大会シンポジウムの時間(9:30開始)**になりましたら、案内のあったURLに接続し、Zoomを起動して、オンライン会議に参加してください。Zoom上では、**名前を「氏名(所属)」**のように入力願います。
- ④ 報告内容に対する**質問、討論への参加は、Zoomの「チャット機能」または「挙手」機能**を使って行います。
- ⑤ 大会シンポジウム終了後、同じオンライン会議室(ミーティングID)で、**引き続き、総会**を行います(総会に出席しない方は、シンポジウム終了後、会議を退出してください)。

## 2. 個別報告について

### (1) 個別報告の閲覧及び質疑の方法

- ① 報告動画（各報告20分）をYouTubeチャンネル（第57回東北農業経済学会岩手大会）で公開しています（URLは下記）。

<https://www.youtube.com/channel/UCCRSdB-KgXUY9aVpFg-GQkg/videos>

- ② 個別報告一覧は以下のとおりです。

| No | 報告者(所属)                                 | タイトル   | 座長                    |
|----|---|--|-----------------------|
| 1  | 馬赫(Ma He) (東北大学農学研究科)                   | Study on Traceability System Risk Management of the Food Supply Chain for Chinese Infant Accessory Food Industry | 笹原和哉 (農研機構東北農業研究センター) |
| 2  | 川崎訓昭 (秋田県立大学生物資源科学部)                    | 地域の要望・実情を考慮した経営戦略と人材育成   | 黒沢雅人 (秋田県農業試験場)       |
| 3  | 須田茂樹 (山形県農業経営研究会)                       | 稲作大規模家族経営の継承者の展開と今後の方向   | 澤田守 (農研機構中日本農業研究センター) |
| 4  | 泉谷眞実 (弘前大学)                             | 東北稲作地域における稲わらの用途転換とわら焼きの縮小プロセス   | 野中章久 (三重大学生物資源学部)     |
| 5  | 唐冠琰(Tang Guanyan)(東北大学大学院農学研究科)         | 若い世代の女性農業者のパーソナルネットワーク   | 伊藤和子 (宮城県農業・園芸総合研究所)  |
| 6  | 王聰(Wang Cong) (The University of Tokyo) | Does Non-farm Employment Reduce Poverty and Vulnerability? Evidence from Nepal                                   | 高山太輔 (福島大学食農学類)       |
| 7  | 長沢咲希 (秋田県立大学大学院)                        | 農業法人における若年正社員のアイデンティフィケーション—質的分析方法「SCAT」による接近—   | 小山田晋(北海道大学)           |
| 8  | 小田嶋和希 (富士大学大学院(院))                      | 登録再生利用事業者における食品リサイクル肥料の販路展開論理—岩手県を事例に—   | 藤科智海 (山形大学農学部)        |
| 9  | 白崎友也 (秋田県立大学大学院)                        | 中山間地域における住民共同店舗の継続性評価～経済的・社会的観点から～   | 荒井聡 (福島大学食農学類)        |
| 10 | 菅原靖 (山形大学)                              | ウィズコロナ時代における農村ツーリズムの意義と課題  | 秋山満 (宇都宮大学農学部)        |
| 11 | 殷子鈞 (Yin Zijun) (東北大学農学研究科環境経済学)        | コロナ禍による自然観光への意識変化—混雑緩和と入域料支払額に着目して—  | 福田竜一 (農林水産省農林水産政策研究所) |
| 12 | 金子あき子 (龍谷大学)                            | 台湾の外食企業K社の分析に基づく日本産和牛の海外販売戦略の考察  | 石塚哉史(弘前大学農学生命科学部)     |
| 13 | 中村勝則 (秋田県立大学)                           | 集落営農法人における外部雇用と人的資源管理の課題   | 鶴沼秀樹 (秋田県平鹿地域振興局)     |
| 14 | 六本木日和 (弘前大学)                            | 風雨等気象災害による農業被害と農業経営の対応実態   | 吉井邦恒 (摂南大学)           |
| 15 | 樋口倫生 (農林水産政策研究所)                        | インドネシアと中国の食品製造業の産業内貿易—要素調整圧力に焦点を当てて—   | 冬木勝仁(東北大学大学院農学研究科)    |
| 16 | 早川紘平 (東北大学大学院農学研究科)                     | 雇用型養豚法人経営における人的資源管理施策と従業員定着に関する比較事例分析  | 宮路広武 (農研機構東北農業研究センター) |

- ③ 9月4日の間に、YouTubeチャンネルで公開された報告動画を、各自、視聴してください。

- ④ 個別報告への質問（学会員に限る）は、9月4日18:00までに学会事務局（tohoku-agri econ@grp.tohoku.ac.jp）宛にメールでお送りください。

メールの件名は「個別報告質問\_【個別報告番号】」としてください。個別報告番号は上記一覧表、報告要旨集、動画のタイトルに記載されています（例：個別報告質問\_【10】）。なお、座長は報告要旨と報告動画に基づき、報告者に直接メールでコメントします。

- ⑤ 質問者及び座長に対して、9月7日正午までに、報告者から直接メールで回答があります。